

山口市芸術家育成支援事業

第5回やまぐち新進アーティスト大賞

応募アーティスト数：10名

最終選考 候補者：6名

い が	あきこ	(43)
伊賀	晶子	
いわた	かずお	(65)
岩田	一男	
しょかまみ	むらかみまみ	(53)
書家mami	村上真実	
つちや	ひろこ	(29)
土谷	寛子	
ひらい	まき	(24)
平井	槇	
	まこと	(31)
	誠	

(50音順・敬称略、年齢基準日：審査日)

(総 評)

一次審査は、五名の審査委員による閲覧、投票の結果、上位6名の作家に絞り込まれた。二次に進む段階で、今日の流動する価値観をふまえ、作家自らの立つ土台を、しっかりと見つめながら選考することを確認した。フリーな意見交換を重ね、全員一致で大賞に平井槇さん、審査委員賞に、土谷寛子さんの受賞が決定した。若く新しい光の輝きの中に、“やまぐちのアート”の新しい扉を開く可能性を発見することのできる審査会となった。

(第5回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員長 足立明男)

(やまぐち新進アーティスト大賞選評)

身体のデフォルメーションをとおして「アニマ(魂)」の表現を現代に探ろうとする、省察的な制作手法が明快で初々しい。《寝てみる夢》や《穂》と題されたこのたびの小品彫刻ばかりでなく、資料として提出されたドローイングや彫刻・版画・染織の画像など、ここ数年の仕事を眺めていると「アニマ(魂)」の派生語としてのアニマル(動物)やアニメ(動画)の表象に作り手の関心が向け続けられてきたこともよくわかった。「アニマ(魂)」すなわち生きているものの動的な心性は、古来誕生から死に到る過程の全般的な生命の原理と捉えられている。はやくもこの深遠宏大な世界に向かい合う構えを獲得したことは、表現性の正鵠を射たと自負してよいだろう。若き作り手の今後の飛躍を大いに期待したい。

(第5回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員 石崎泰之)

(やまぐち新進アーティスト大賞審査委員賞選評)

平面と立体である線の要素が洗練された感性をもって融合させ表現された作品である。多くの展示会などにより精力的に活動されており、作品に対する取り組みのスタンスや造形哲学の基盤に実力の高さがうかがえる。最後まで大賞作品と審査において競い合うが、次になにか新しいものを魅せてくれそうなエネルギーというところの評価で最終の審査結果となる。今後、新たな方向性や展開などが具現化された作品の創出が楽しみな所である。

(第5回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員 井生文隆)

※ やまぐち新進アーティスト大賞審査委員賞は、今後一層の活躍を期待したいアーティストとして、今回特別に審査委員会から贈られることとなったものです。

・・・第5回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員・・・

足立 明男 (山口情報芸術センター館長)
井生 文隆 (山口県立大学教授)
石崎 泰之 (山口県立萩美術館・浦上記念館学芸課長)
千葉 喜彦 (画家)
大和 保男 (陶芸家)

(50音順・敬称略)

「第5回やまぐち新進アーティスト大賞」

受賞者（アーティスト名）：^{ひらい}平井 ^{まき}槇
肩書き：作家

PROFILE

1988年徳山生まれ、小野田・山口で育つ。
2007年、山口中央高校卒業
2011年、京都精華大学芸術学部素材表現学
科テキスタイルコース卒業
現在、山口市内の企業に勤務しながら、自宅に
て制作。



受賞コメント

このたびはこのような賞をいただいたこととても光栄に思います。
まだまだ拙く、満足のいかないところばかりですが、思い描くものが実現できるよう
これからも制作に向き合っていきたいと思っています。
今はいろんな事に興味が広がり、沢山のひととの出会いに刺激を受けている日々です。
このひとつひとつを肥やしに自分の中の種を育てていきます。
ありがとうございました。

(やまぐち新進アーティスト大賞審査対象作品)



「寝てみる夢」



「穂」

「第5回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員賞」

受賞者（アーティスト名）：^{つちや}土谷 ^{ひろこ}寛子
肩書き：イラストレーター

PROFILE

1983年山口県山口市生まれ。父親の転勤のため、小学校低学年より神奈川県で育つ。東京で会社員として働きながら夜間の絵の学校やシルクスクリーン版画工房で勉強しながら、個展開催や企画展に参加。2011年活動拠点を山口市へ移し、就職をして働きながら創作活動を行う。現在は、人物画を中心に刺繍による表現で作品を制作。



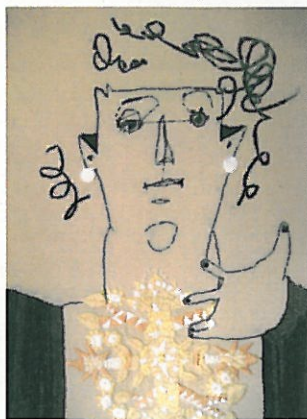
受賞コメント

この度は「アーティスト大賞審査委員賞」に選出していただきありがとうございました。仕事の傍ら、地道に続けてきた自分の好きなことが形になり、審査員の方に評価してもらえ、その上、特別に審査委員賞を頂けたことは大変嬉しく感謝の気持ちでいっぱいです。今回の賞を励みに、より多くの作品制作をして、作品が色々な人の目に触れる機会がつかれるように、これからも変わらず努力し続けたいと思います。

(やまぐち新進アーティスト大賞審査対象作品)



「花火4」



「風花」



「華やぐ」

山口市芸術家育成支援事業

第6回やまぐち新進アーティスト大賞

応募アーティスト数：9名

最終選考ノミネート者：6名

イシカワ ユウイチ (24)

うすき まりみ
臼杵 万理実 (27)

おかだ わたる
岡田 航 (24)

とくまん たかよし よろずあーと
徳万 隆良 Yoroquart (37)

ハセガワ タカシ (38)

まこと
誠 (32)

(50音順・敬称略、年齢基準日：審査日)

(総 評)

今回は、応募者の大半が20～30代の若きアーティストであり、審査会場も、新鮮な萌芽に包まれ、明るい雰囲気であった。まず、委員全員による投票。上記の六作家が選出された。つぎに、満票を獲得していたハセガワ、臼杵両氏を中心に合議し、最終的に臼杵万理実氏の大賞授賞が全員一致で決定した。氏の地元山口に活動の場を設け、子どもたちの創造活動に寄りそいながら、街並みに展開される文化活動にも積極的に参加。アートを通じた魅力ある地域づくりを目指した活動に、今後の期待をこめての授賞となった。

(第6回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員長 足立明男)

(やまぐち新進アーティスト大賞選評)

日々のうつろいを心のうちにひそめつつ、その時の情感や気持ちを視覚に刻み込む。やさしく、ていねいな表現力が記憶に残る。主調色はブルー系統。アクセントとして暖色が入り込む。

形態として、物憂げな少女の顔や姿が、こまやかに線描写されている。透明感の強い空間に置かれると似合うようだ。作品を拝見し、ほっとしたり、ちょっと微笑んだりした。

今後の作品づくりを大いに期待します。

(第6回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員 今井徹也)

・・・第6回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員・・・

足立 明男 (山口情報芸術センター館長)

井生 文隆 (山口県立大学教授)

石崎 泰之 (山口県立萩美術館・浦上記念館学芸課長)

今井 徹也 (今井徹也建築設計事務所)

千葉 喜彦 (画家)

大和 保男 (陶芸家)

(50音順・敬称略)

「第6回やまぐち新進アーティスト大賞」

受賞者（アーティスト名）：^{うすき}白杵 ^{まりみ}万理実
肩書き：美術家

PROFILE

1986年山口県光市生まれ。小学校2年生より山口市で育つ。

2009年山口県立大学 環境デザイン学科卒業

2012年山口大学大学院教育学研究科修士課程

教科教育専攻美術教育専修卒業

山口市を拠点に作品制作をし、県内外の展覧会やイベントに参加し活動している。

最近ではフライヤーやCDジャケットのイラストなども描いている。

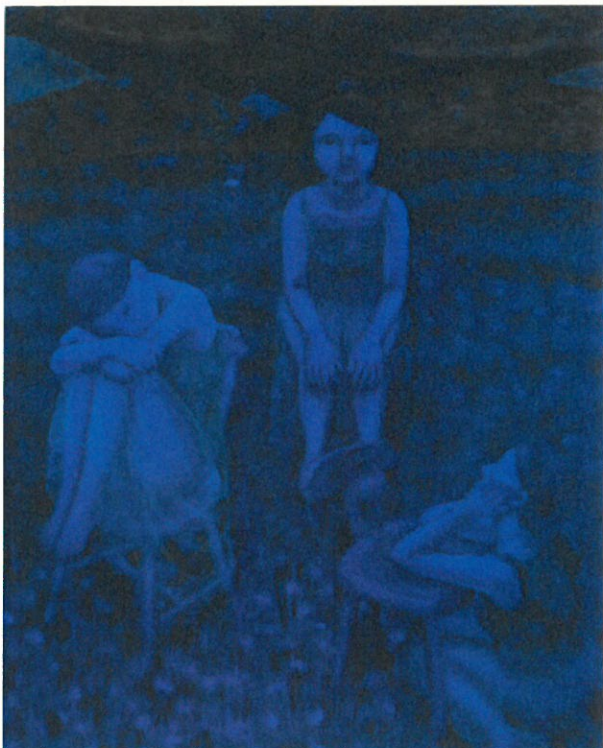


受賞コメント

この度は新進アーティスト大賞に選んでいただきありがとうございました。とても嬉しく感謝の気持ちでいっぱいです。今後の制作活動の自信に繋がりました。

応援していただいている周りの人たちへの感謝の気持ちを忘れずに、これからも作品制作を続け、作品も自分自身も成長できるよう頑張りたいです。

（やまぐち新進アーティスト大賞審査対象作品）



「無言の対話」



「イツモドコカニ」



「アメノヒハ」